

叶津川左岸滝の沢平石沢中間尾根 小沼 充範

■山行年月日:2023年5月3日～5日

■メンバー:小沼充範

■コースタイム:

5月3日 入叶津 11:00～遅沢出合 12:20

5月4日 遅沢出合 10:00～滝の沢平石沢中間尾根 861m 13:00～下山開始 13:40～遅沢出合 15:20

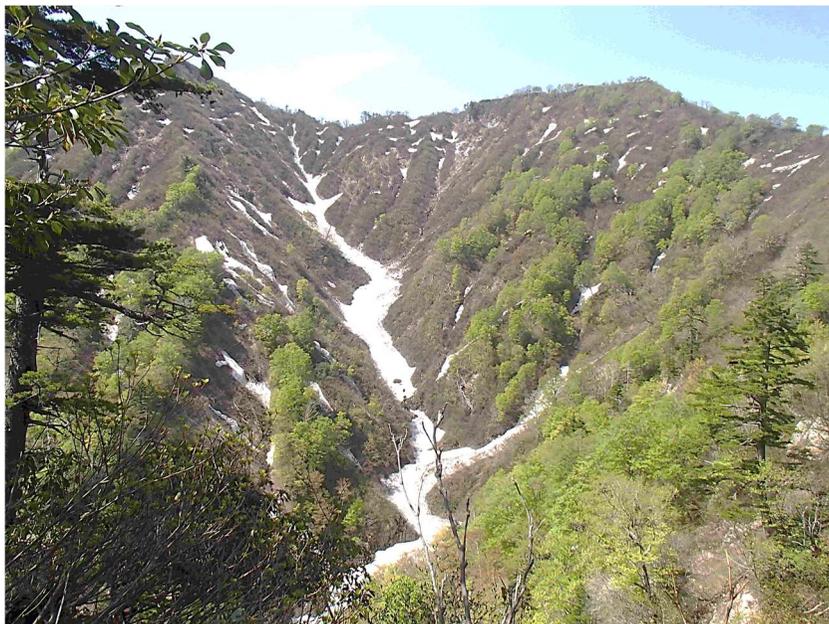
5月5日 遅沢出合 11:30～入叶津 14:00

今年は雪融けが早く残雪も少ない状態であり、5月連休どこの山へ登ろうかと考え込んでしまう。人混みは避けたいので、叶津川流域でキャンプをすることにした。入叶津から未開通の国道を歩いてくる人は、それほどいないであろう。

5月3日。入叶津の集落を過ぎると

手で動かせる重石の付いたゲートがあるので、広場に駐車し11時出発する。10分ほど歩くと浅草岳登山口であり4台の車が駐車してある。その先のスノーシェッドには従来あった大きなゲートが撤去され車で入れるようになっている。地元の人達とのトラブルを避けるため歩くことにする。

新緑を楽しみ、小鳥の鳴き声を聞きながら歩くアスファルトの道は退屈しない。5月連休にもかかわらず人と会わないというのが気持ち良い。遅沢目指して土砂の堆積場の側を通って行くと遅沢の左岸がテラスとなっており、12時20分、テントを張り設営地とする。沢の水が流れており、雪を融かして水を作る手間が省ける。時間があり、腹減らしのため八十里越峠入口の残雪のブナの新緑



尾根から見る平石山

を見に行く。テント場に戻り焚火をつくる。明るい時間から周囲の新緑を眺め、雪解け水で冷やしたプレモルを飲めるのは最高である。

5月4日。腹を減らすため、叶津川左岸の滝の沢と平石沢の間尾根を行ける所まで登ることにする。テント場10時出発。尾根の末端へは東側の急な斜面を登って取り付く。

尾根上はブナが生え踏跡が付いている。所々に切付けも見かける。尾根は痩せており眺めが良く、浅草岳と黒姫が見え、平石沢は雪渓で埋めつくされており新緑とのコントラストが美しい。雪田を過ぎると雪樁の藪こぎとなるが、再び痩せ尾根となり歩きやすくなる。

尾根の向きが北へ変わると岩稜となり、容易に通過することができる。木の幹に熊の爪痕を見かけるが、熊の糞は見当たらない。松の生える尾根は、下草が薄く歩きやすい。展望を楽しみながら尾根を登り、13時、861mピークに到着する。ピークは展望が良く、猪ヶ森山、丸山岳、会津朝日岳、叶津川を望むことができる。周囲はシャクナゲの花が満開である。今日は、5月連休にもかかわらず、異常な暑さである。早くテント場に戻って缶ビールを飲みたいという気持ちが優先してしまい、三角点1030mピーク（平石山）は以前、平石沢から登っているという理由から、13時40分、861mピークから往路に戻る。15時20分、テント場に到着する。雪融けの沢で冷やしたプレモルがとともうまい。夜は、焚火の傍で角瓶を飲みつつ星空を眺めた。

5月5日。賑やかな下界には戻りたく

ないので、新緑の沢の中で、ゆっくりくつろぎ11時30分出発する。浅草岳登山口の水場の水がとてもおいしい。杉の大木の木陰がとても涼しく昼寝をする。14時、入叶津に到着する。3年後に三条市へ至る国道289号線が開通するそうだが、私は喜べない。開通することにより叶津川流域の山々の良さが失われてしまうからである。入山者が増えることによりゴミが増え、騒音とも言えるツーリングのバイクの音が山々に響き渡るかと思うと悲しくなる。叶津川流域の静かな山を楽しめるのは後3年しかない。

このまま只見を去るのは、もったいないので只見町のスーパーで酒と食糧を買い、塩沢川の林道で人目のつかない場所を見つけキャンプをすることにした。



熊の痕跡